

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年12月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676300140
法人名	有限会社 澤津ケアサービス
事業所名	グループホームぬくもりの里
所在地	鹿児島県曾於市大隅町中之内6078番地9 (電話) 099-471-2802
自己評価作成日	令和3年10月23日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームぬくもりの里では、利用者様がゆっくりとご自分のペースで、楽しみを持ちながら快適に生活できるように、利用者様本位のケア、そして笑顔が見られるケアに努めています。毎日のレクリエーションでは、スタッフと一緒に折り紙で花を作ったり、脳活性化の体操や、歌を歌う等様々な活動を積極的に取り入れています。また季節を感じて頂くために、旬の食材を提供したり、散歩やドライブにもお誘いしています。

最近ではコロナ禍で、面会制限など実施しており、面会が難しい状況ですが、感染予防対策を徹底し、窓越しの面会や、オンラインでの面会も実施しています。またホームページ上で「ご家族の部屋」として毎月の行事や、写真を掲載しいつでもご覧いただけるようにし、情報提供しています。利用者様の状態等、必要時は電話やメールを活用し、ご家族様が安心して頂けるよう取り組んでいます。体調管理も最後まで住み慣れた所で、生活できるよう、看護師を配置し、また主治医や地域課看護師との医療連携を図り、必要時は訪問看護を使用し、安心して生活できるよう努めています。

ICT導入し利用者様の生活リズムなど把握でき、スタッフ間の情報共有も直ぐにできており、無駄のない業務を行うことで、利用者様と向き合う時間も増え、安心して生活を送れるよう心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に、「開かれたホームとして地域交流を図る…」を掲げているため、常に地域を意識した活動に根ざしているホームである。代表者は、笠木地区コミュニティ協議会の健康福祉部会長でもあることから、小学校で認知症の理解のための寸劇を披露するなど地域貢献している。また、小学校では社会科学習の一環で、「ぬくもりの里を訪問しよう」というテーマを掲げ毎年学習発表会が開催されている。代表者は、小学校の運動会や卒業式に参加したり、情報共有して相互に協力関係を築くなど日常的に交流活動を続けている。地域行事には積極的に参加をしていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため活動を自粛している。

職員は、主任、リーダー制をとりリーダーは主任の補佐を担っている。介護記録は、職員全員でデジタル化に取り組んでいる。また、利用者家族や事業所間の連絡などもSNSを活用している。来月にはベトナムから研修生を受け入れる予定で、職員とも準備を始めている。コロナ禍で外部研修は、オンラインで参加し本人の希望や必要性に応じて研修を受け自己研鑽し、サービスの質向上に活かし職員や事業所の目標の具現化に向けて取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念は職員と一緒に考え、毎月のミーティングで復唱している。また理念を共有して実践につなげるため、達成目標として4半期ごとに統計をとっている。	開設当初からの理念であり、3ヶ月ごとにケア全般とともに職員が自己評価しており、開かれたホームとして地域交流を図ることを目指したホームである。理念は定期的に振り返り、見直しを含め職員全員で検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加していたが、今年度はコロナ禍のため、自粛している。また当該施設の役員は地域のコミュニティー協議会の福祉部長として地域と交流の機会を確保できるように心掛けている。	小学校の社会科学習の一環で、「ぬくもりの里を訪問しよう」というテーマを掲げ、毎年学習発表会が開催される。施設役員は、小学校の運動会や卒業式に参加したり、保育園児との交流活動もあるが、現在は自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の方が相談しやすいホームとして支援しようとして心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の方や、行政の方をお呼びして活動報告や行事への参加をお願いしている。またご意見をいただきサービスの質の向上に努めている。	会議資料を事前に配布し、2週間後を目途に会議メンバーから返信をもらっている。出された意見を職員全員で話し合い、サービスの向上や業務改善に活かし会議メンバーに今後の取り組みについて報告している。オンライン敬老会、ショートステイの受け入れも再開するなどサービス向上に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に参加をお願いしている。また介護保険制度のこと等わからないことがあった場合には相談したり、ご意見をいただいている。	市担当者とは、運営推進会議への書面参加や電話や直接面談をおこない情報交換をし協力関係を築いている。日常生活自立支援事業所の活用があり、社会福祉協議会との連携がある。地域包括支援センターなどから入所相談があり待機者も多い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を整備している。また身体拘束廃止委員会を設置し三月に1回開催している。その他、年に2回の職員研修を行っている。内容としては身体拘束や虐待につながりうる不適切なケアの理解や認知症の基礎的理解なので、様々な視点で考える事ができるよう心掛けている。	身体拘束等適正化を図るための会議は、3ヶ月毎に開催され毎年2月は、運営推進会議と同時開催されている。見守りを重視し行動を制限しないケアに取り組んでおり、内部研修を定期的実施し知識や技術を習得に向け自己研鑽している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、身体拘束委員会と一体的に委員会を開催し職員研修も開催している。また、虐待防止の検討委員として担当者を定め、入り口に掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度、権利擁護については、1月に法令遵守、倫理の研修とともに事業所内で研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書などをもとに、丁寧に説明している。疑問に思うことなどは十分な理解を得られるまで丁寧に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	メールや面会時に状況報告を行い、ご家族からの意見や要望を聞き、その意見や要望はすぐにLINEWORKSでスタッフに共有できるようにしている。また民生委員の方には苦情の窓口としてお願いしている。	毎月、広報誌「ぬくもり」を郵送している。家族から出された意見、要望などはラインワークスにて職員情報共有され、スタッフ会議で協議され業務改善やサービスの質の向上につなげている。利用者の写真を、CDにして家族に差し上げ喜ばれている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、ミーティング時や個別の面談で意見を聞いている。また自己評価表や達成目標提出時にコメント欄を用意し記入している。主任を通して職員の意見を聞くこともある。	職務体系をデジタル化する事で、職員のパソコン入力が増え最初は戸惑いもあったが、職員の意見を聞きながら業務を見直している。また、来月、ベトナムから研修生受け入れを予定している。職員の質向上を目指しオンラインの外部研修や、内部研修に参加し自己研鑽している。人事考課システムがあり管理者が随時面談をおこなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境づくりに心掛けている。昇給の明確化等、処遇改善加算を積極的に算定できるように整備し随時面談を開催している。また資格をや研修などの受講料の補助も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一人一人の力量を把握していると感じる。認知症についての研修も開催し個々のスキルアップに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年度はコロナで集合体の研修や集まりがなかったが、管理者や代表者は、市内の同業者と常にネットワークを作れる環境を構築している。（他事業所の役員など）</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人や家族から不安や要望等十分話を聞き直ぐにケアに生かすことができるようスタッフと情報を共有している。また共同生活に慣れるまでは特に注意し本人の意向を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や心配なことようぼうはしっかり傾聴し、こまめに連絡をとり、現状報告をし信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の要望はしっかりと傾聴し、LINEWORKSを活用し情報共有している。また必要なことはケアプランに盛り込み対応し毎月カンファレンスを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝いやできる事はして頂き、共に生活する家族として接する事を心掛け関係づくりを築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で家族会は開催できていないが、電話やメール、面会時に情報提供し関係を築くよう努めている。また家族の思いを共有し共に支えていく関係を心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症予防のため面会は難しい状況ではあるが、本人の馴染みの場所へドライブに行かれたり散歩に行くなどしている。	天候や体調を見ながら近隣を散歩し地域の方々と挨拶を交わすなどして気分転換をしている。これまでの関係性が途切れることがないよう電話の取り次ぎや手紙などの代読をしたり、家族に協力をもらい命日に墓参りをしたり、訪問理美容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションに参加して頂き利用者同士の関りを持てるようにしている。また散歩やドライブには数名で行くよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了する場合でも、ご家族の意見、利用者の意見を尊重している。また、サービスが終了しても相談がある場合には内容を聞き、そのに応じた支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意見や要望等しっかり聞きケアに生かせるようにしている。また重度化に伴い意思表示が難しくなった場合も利用者本位の姿勢で最善のケアに努めている。	言葉にできない利用者の思いや心の変化を感じ取るよう努めたり日々のケア、申し送りや支援経過記録などでその思いに触れ、更新時のカンファレンスや毎月のミーティングで情報を共有し本人本位にケアしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや本人との会話、台帳等により一人一人に生活歴や暮らし方について把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントし、日中夜間とケース記録や業務日誌を活用し把握している。また本人の表情や言動を観察し心身の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位の生活ができるよう、家族や本人の意見を聞き、必要時担当者会議を開催し毎月カンファレンスを行いケアプランに反映している。	担当者会議には、主治医も参加されることもあり、家族内のキーパーソンとメールでやりとりし介護計画書を提示し意見を聞くようにしている。計画書の根拠となるアセスメントやモニタリング、課題整理総括表は、利用者、家族に計画の目標やサービス内容の根拠を説明するためのツールでもあり活用されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録や業務日誌を記入し、また情報共有できるようにLINEWORKSを活用している。毎月カンファレンスを行いケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方におられる方や、状態の変化があった場合は、電話やメールで状況報告をしている。また、要望を聞き外出や病院受診の支援を実施しサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らしていけるよう、民生員や地域の方々と連携を取っている。コロナ禍で地域交流は難しい状況であるが、できるだけ親友が面会にこられた場合など、感染対策をお願いし支援できるように心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、毎月訪問診療時に個々の要望に対応し、病状悪化等家族に連絡し必要時受診している。また家族が主治医の話聞く機会を設けている。訪問看護も必要時利用している。	利用者は、協力医療機関による訪問診療を受けているが、整形外科は他科受診になり職員が同伴している。。看護師の資格を持った職員も多いが、看取りの際は、訪問看護との連携もした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルサインや体調の変化があった場合は看護師へ報告している。また看護師と介護スタッフとの連携もとれており必要に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域科看護師と連携を図っている。入院時も情報提供を行い退院にむけてもソーシャルワーカーや担当看護師、主治医、地域科看護師と連携を取り、事業所での対応可能な段階で早いうちに退院できるようアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者と家族に事業所として対応できる終末期ケアについて入居時や時期が訪れた時に十分に説明し理解して頂けるように努めている。また病院との連携を密にし利用者にとって居心地の良い環境を整えチーム全体で情報共有し支援するよう取り組んでいる。	契約時、重度化及び看取りに関する指針にて説明、事前意思確認書や事前指示書があって利用者や家族の意思が文書化されている。「眠りスキャン」の導入により就寝時のバイタルを自動的に測定するため夜勤者の業務や介護が円滑になった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に新人研修を行い、また年間スケジュールに沿って研修を行っている。各棟にマニュアルを備えており、看護師指導のもと実践力を身に付けるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年2回実施している。地震や水害、近隣火災等の場合もマニュアルを準備している。また、以前は運営推進会議にて地域の方に訓練に参加していただいていたが、コロナ禍で施設訪問ができなくなり、来年度に共同で訓練ができればと考えているところである。</p>	<p>防火管理者は、月1回、「自主チェック表」で点検を実施。地震の時は、コミュニティセンターへ避難するが、近くに消防分団詰所が出来る予定もあって安心感を得ている。以前、自然災害で3日間断水した経験があり、5年の保存水や米、インスタント類保存食、災害グッズなどを備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と多くコミュニケーションを図り利用者本位のケアに努め、人生の先輩として尊重し対応している。またプライバシーや誇りを大切にした言葉かけを実施している。	接遇やマナーについては定期的に評価を実施し、不適切な言葉使いをしないよう徹底し、職員同士も注意し合う関係性を構築している。職員は、ミーティングで研修をおこない人格や尊厳に配慮したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月1回はモニタリングを実施し利用者の希望や思いを確認している。日常生活においても利用者の希望など傾聴し、その希望に添えるようスタッフで情報共有し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気分・表情等観察し本人のペースで生活出来るよう支援している。また散歩やドライブ等もご希望に応じて参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	更衣や洗面等自立の方は少ないが出来ることがはして頂けない部分を支援している。施設内の行事がある時は化粧やセットを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで作っている野菜など一緒に収穫し、食事やおやつで提供している。また季節を感じて頂けるよう、旬の食材を提供している。食後の片付けや、茶碗洗いも状態を見て一緒に行っている。	献立は決めておらず、2ユニットともに昼、夕食は同じ献立であるが、利用者の意向を取り入れている。おせち料理、餅つきなど行事食、たこ焼きパーティー、ソーメン流し、おはぎ作りや中庭でお弁当を楽しんでいる。菜園の野菜は調理に役立てられ、差し入れなどもあって有効活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量を記録に残し状態観察している。食欲がない場合等本人の好きなものを提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食膳にお茶嗽を行い、食後は口腔ケアを徹底し口腔内のトラブルがないよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレ案内やオムツ交換を実施している。また本人に合ったオムツを選んでいる。また訴えがない場合も時間や表情動きを見てトイレ案内を行っている。	職員は、尿パットの種類を検討する際、尿測を実施して家族にデータを示し説明してから変更するようになっている。また、排泄の声かけは、プライバシーに配慮し個々に工夫を凝らしている。ヤクルトやヨーグルトなど乳製品を摂るなど腸活にも努め排便コントロールに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況は記録で確認している。便秘予防として水分摂取やレクに参加して頂き体を動かして頂いている。また医師の指示のもと下剤の調整をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	バイタル測定しその日の体調を見て入浴している。拒否があった場合等は、時間やスタッフを変えて声掛けを実施し、無理はせず、翌日に入って頂くよう支援している。	入浴は希望や必要性に応じて、いつでも入浴ができるよう取り組んでいるが、原則午後から入浴支援する予定である。乾燥予防のため入浴剤は使用せず、石鹸に気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は車椅子で過ごす時間が長くなるないようにベッドやソファへ案内し下肢挙上など行っている。夜間は眠りスキャンで入眠状態を観察し、安眠できるよう室内環境を整えたり安心して休めるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の文献をいつでも確認できるようにしている。また薬の変更等あった場合は、状態の変化を観察し、変化があった場合は看護師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いやできる事は積極的に取り組んで頂けるよう心掛けている。またレクリエーション等も参加して頂けるよう声掛けを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や天候を見て散歩にお誘いしている。また希望があればドライブを実施している。ご家族との外出はコロナ禍のため、中止している。	ドライブがてら遠出して海を見に行ったり、コスモス見学に行き車内でお茶を飲んだりするなど毎月1回は利用者の希望を確認しながら外出をしている。墓参りは、家族に協力をもらっているが、コロナ禍であるため外出の頻度が少ないため近隣の散歩をおこない気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で管理できる方は自室で管理している。その他の方は事務所で管理し、本人の希望や必要時に使えるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族や友人へ電話の希望があれば、その都度対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎朝、空気の入替えをしている。また季節の花を飾ったり、折り紙などで飾りを作り式を感じて頂けるよう心掛けている。スタッフは声の大きさや口調に気を付け、静かな環境を作るよう努めている。</p>	<p>利用者の重度化もあって、畳スペースは2帖程度残り撤去し、ソファを複数台設置して好きな場所で思い思いに過ごせるよう工夫している。天窓からの採光や対面キッチンで温かみのある共有スペースである。中庭を渡り廊下で往来し、各ユニットにつながる構造となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや椅子を準備し、思い思いの場所で過ごして頂けるよう配置している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の使い慣れた物や、写真等置き落ち着ける環境を作り、居心地よく過ごして頂けるよう、心掛けています。</p>	<p>エアコンや床頭台つき木製の電動ベッド、クローゼットが設置され、居室扉には、「SOS」のプレートが掛けられ避難確認に利用されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立した生活が送れるよう、手すりや、段差解消のスロープ等設置し環境を整えている。居室の場所が分かるように一人一人、表札と作り分かりやすくしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない